

滋賀県文化情報

『えんむすび』

●びわ湖☆アートフェスティバル

BAF2020開催!

次世代アーティストによるパフォーマンスやコンサートなど、皆さまで楽しんでいただけるイベントをご用意して、ご来場をお待ちしています!

◇日時：令和2年2月16日(日)

11:00～17:00(予定)

◇会場：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール全館

●県内移動展示事業

滋賀県立近代美術館

×かわらミュージアム
「土から生まれた」展

現在リニューアル整備のため長期休館中の滋賀県立近代美術館は、県内の施設において館藏品等の出張展示を行なっています。第四回目となる今回は、「土」をテーマとし、県内の福祉施設における造形活動の歴史から生まれた陶芸作品をご紹介します。再開館に先立ち、滋賀県立近代美術館の新収藏品をお披露目する機会となりますので、ぜひご覧ください。



澤田真一「お面」2014年(滋賀県立近代美術館所蔵)

◇会場：かわらミュージアム
(近江八幡市多賀町)

◇会期：令和2年2月15日(土)
～3月22日(日)

◇開館時間：9:00～17:00
(入館は16:30まで)

◇休館日：月曜日
(月曜日が祝祭日の場合はその翌日)

◇入館料：
一般300円(10人以上団体250円)、
小・中学生(同150円)
※かわらミュージアムの常設展もご覧
になれます。
※障害者手帳をお持ちの方は一般料金の
半額(小・中学生の場合は無料)

◇催し..

「BAFミュージカル・フェスティバル」

(大ホール・無料)

県内高校書道部、若手書家による書道パフォー
マンス
(中ホール・有料)



BAF2019の様子

◇問合せ..
(公財)びわ湖芸術文化財団地域創造部
077・523・7146

◇ホームページ：<http://bat2020.com/>

「山本英^{はな}(次世代文化賞受賞)フルート・リサ
イタル」
(小ホール・有料)

その他、手作り作品のアートフリーマーケット、
子どもたちも楽しめるワークショップ、
ロビーコンサート(無料)等、盛りだくさん!



ホームページには
QRコードの読み取り
でもアクセスいた
だけます

Made in Shiga 「身近に感じる「美」の世界

●写真でまちは元気になるのか？

長浜ローカルフォト 事務局 矢島 絢子

「よおさんの人が来てくれやって、村の中が明るくなったわ」

余呉町菅並。滋賀県北部の豪雪地に35世帯が暮らします。2019年夏、この地で私たちは野外写真展を開催しました。集落に点在させるように設置したのは等身大の写真パネル。被写体は住民のみなさんです。余呉型民家と呼ばれる三角屋根の家々が残る景観を含めて鑑賞してもらおうと、集落をまるごと展示空間に仕立てました。

山の谷間の辺境ともいえる地、かつ無名の団



屋外展示企画での撮影の様子



集落あちこちに配置した写真パネル



3年間の育成講座を経て独立

近年に実施された「暮らしアート事業」の中から地域を元気にする主な取り組みを紹介します。

体の試みにわざわざ「来場」してくれる人がいるのだろうか……。そんな不安は杞憂に終わりました。自治会長からは「今日は100人は来てたで」「県外の車もたくさん」と都度報告が。住民の過半数が高齢者の、ふだんは本当に静かな集落への多数の来場者に私たちの方が戸惑っていたところ、住民の一人からいただいたのが冒頭の言葉でした。それはまさに私たち長浜ローカルフォトのめざす姿でした。

●ローカルフォトとは

団体名を伝えると、写真愛好家の集団ですかとしばしば返ってきます。確かに写真を撮るのが好きなメンバーが集まっていますが、目的は「まちづくり」です。

「ローカルフォト」とは、地方に暮らす人への撮影に特化する写真家MOTOKOさんが提唱する手法で、その地ごとの人々の生き生きとした暮らしぶりを写真を通じて発信しているというものです。

長浜という地への関心を高め関係人口を増やすとともに、被写体となった地域の人が改めてまちへの誇り(シビックプライド)をもつきっかけになってほしいとのねらいがあります。

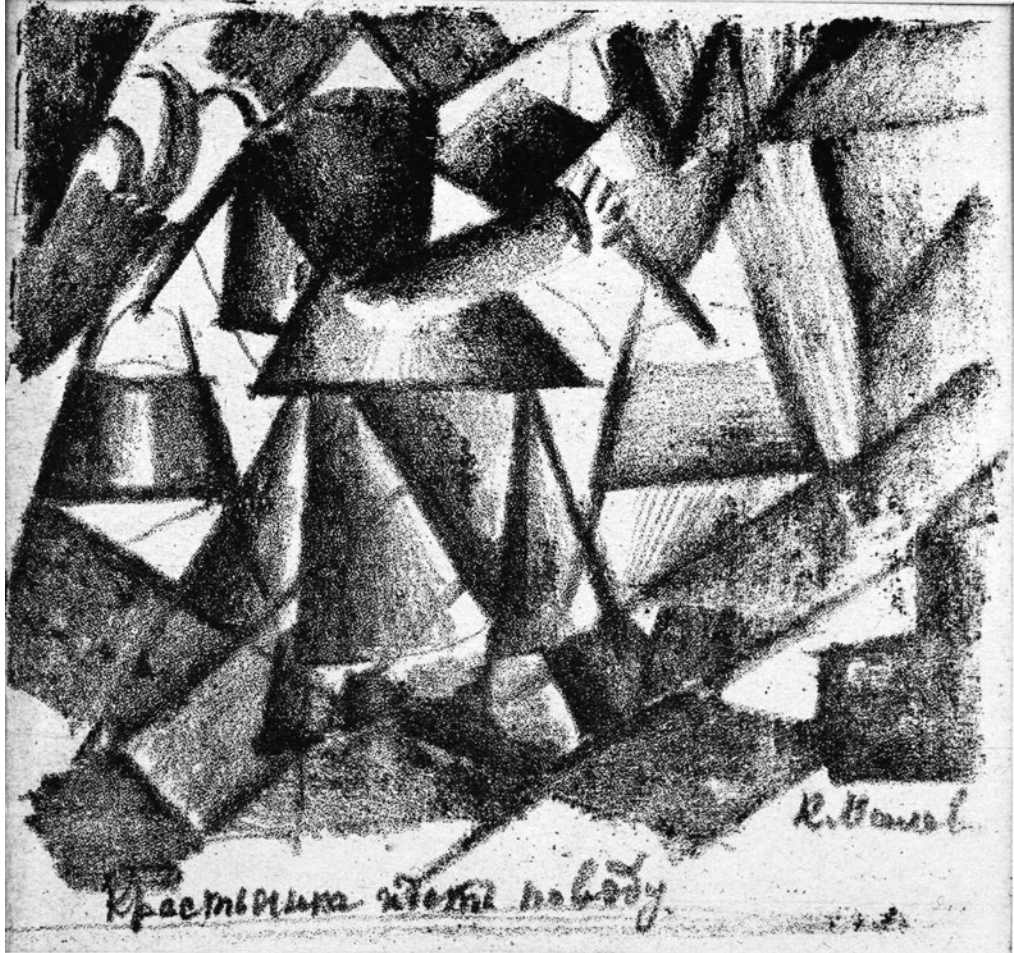
もとは長浜市の人材育成事業として、MOTOKOさんとカメラメーカーオリンパスが連携し、市民を対象に3年かけて講座を開催してきました。その終了生が自立して2019年春に設立したのが長浜ローカルフォトです。30〜50代の男女11人のメンバー初の主催イベントが、菅並の企画であり、3年かけ学んできたことの成果発表となりました。

「写真なんか恥ずかしいわ」「私は遠慮するわ」。菅並での撮影当初はこんな声ばかりでした。繰り返し通ううちに打ち解け、笑顔でカメラの前に立っていただけになるようになり、同時に私たちもこの地に、そこで暮らす人に魅了されていきました。

私たちがファインダー越しにとらえるのは、風光明媚な景色ではなく、有名人でもありません。ただ、その土地になくはならない人たちです。そんなローカルヒーローをこれからも伝えていきます。

アートのみかた

— 滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに —



カジミール・マレーヴィチ「水を汲みに行く農婦」 リトグラフ・紙 1913年 9.9×10.6cm 滋賀県立近代美術館蔵

●^{アバンギャルド}前衛的に描く農民の姿

肩にかついだ天秤棒の両端に桶を下げて歩いていく農婦が描かれています。しかしその姿と背景は、三角形や四角形、円筒形から構築され、一見判然とせず抽象的に見えます。キュビズムや未来派といった20世紀初頭の前衛的な芸術動向を取り入れて描かれているためです。描く対象を単純な幾何学形態へと解体したり、時間や運動といった概念そのものを造形化しようとしました。

作者のカジミール・マレーヴィチ（1878

滋賀県立近代美術館学芸員 古沢ゆりあ

～1935）は、ウクライナのキエフ（当時はロシア帝国領）に生まれ、モスクワで絵を学びました。単純な色彩と幾何学形態からなる純粹抽象絵画を追求しシュプレマティズム（絶対主義）を提唱するなど、新しい表現を生み出していく一方で、少年時代をすごした農村地帯の暮らしに深い共感をいだき、農民による装飾画や木彫の色彩、伝統的な宗教画であるイコンに美を見出し、農民の姿を多く描いています。

オペラ日和

●遺産を巡る痛快なドタバタコメディを

最高のオペラで!!

びわ湖ホール事業部 チーフプロデューサー

館脇 昭

毎年春に開催する「近江の春びわ湖クラシック音楽祭」は、短い公演時間と、お求めやすい価格、一流の出演者による公演を沢山用意し、多くの方から好評をいただいています。この音楽祭でも気軽にオペラを愉しんでいただけるよう、ブッチーニ作曲 歌劇《ジャンニ・スキッキ》を演奏会形式でお贈りします。ダンテの「神曲」の地獄編の挿話にヒントを得て作られ、テンポ感に溢れた劇の進行と優れた音楽によるこの作品は、活力と機知にとみ、ヴェルディの《ファルスタッフ》以降、イタリアに生まれた最高の喜劇オペラといわれ、今もなお、世界中の劇場で上演されています。

時代を越えて生き残ってきたオペラには必ず心に響く美しいアリア（詠唱）が存在します。このオペラにも、主人公ジャンニ・スキッキの娘ラウレッタが、父親に恋人との結婚の許しを請うシーンで歌う「私の優しいお父さん」（コマ一シャルなどでも度々用いられ、ソプラノの全アリアの中で最も有名な曲の一つ）や、ラウレッタの恋人リヌッチョが、賢人たちを育み、花の都として栄えるフィレンツェの街の様子を力強く歌いあげる「フィレンツェは花咲く木のように」

アルノ川に架かる「ヴェッキオ橋」。恋人との結婚を許してくれなければ、この橋から身を投げるとラウレッタがアリアの中で歌っています。



フィレンツェの街並み



といった素晴らしいアリアがあり、このオペラを魅力的なものにしています。

資産家のブオーゾが亡くなり、その遺産がすべて修道院に寄付されることを知り嘆く親戚たち。田舎者で成り上がりの知恵者であるジャンニ・スキッキが、イタリアのフィレンツェを舞台に、遺産を巡る親戚間の騒動と、若い男女の恋も見事に解決する痛快なドタバタコメディ。日本を代表する歌手により、とびっきりのオペラをお楽しみください。

ブッチーニ作曲 オペラ 《ジャンニ・スキッキ》

全1幕（約50分）/
演奏会形式（イタリア語上演・日本語字幕付）

日時 令和2年4月26日(日)
会場 びわ湖ホール大ホール
指揮 沼尻竜典
構成 中村敬一
出演 青山 貴(ジャンニ・スキッキ)
石橋栄実(ラウレッタ)
二塚直紀(リヌッチョ) ほか
管弦楽 日本センチュリー交響楽団
チケット S席 3,000円、A席 2,500円
B席 2,000円、18歳以下各席500円引
(全席指定/3月1日一斉発売)

●豆知識

ブッチーニは、19世紀後半から20世紀にかけて活躍したイタリアの作曲家で、生涯に13のオペラを遺しました。ヴェルディの《アイーダ》を観てオペラ作曲家を志し、3作目の《マノン・レスコー》が大ヒット。《ラ・ボエーム》《トスカ》、《蝶々夫人》と立て続けにヒット作を生み出します。《ジャンニ・スキッキ》は、1幕劇の《修道女アンジェリカ》、《外套》とともに3部作として作曲されました。この後、《トゥランドット》の創作にかかりますが、3幕の途中で亡くなった為未完に終わっています。ヴェルディ亡き後のイタリアの最高のオペラ作曲家といわれ、覚えやすく美しいメロディは、多くの人を魅了しています。